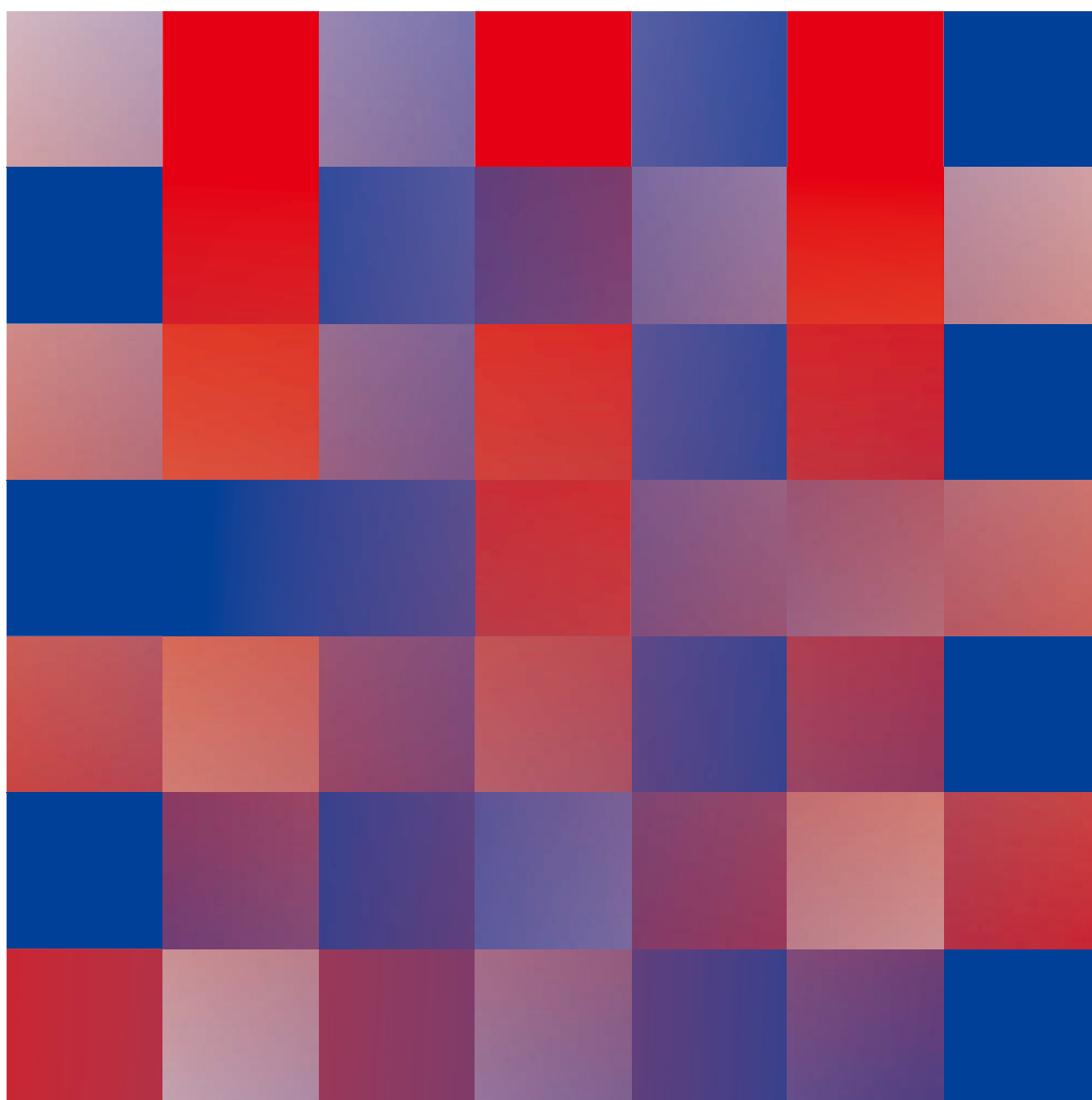


Japan Inclusive Football Federation

ANNUAL REPORT 2020

一般社団法人 日本障がい者サッカー連盟
年次報告書 2020



サッカーなら、 どんな障害も 超えられる。

日本の人口の7.6%は障がい者です。

その障がいは多様で、

ひとつとして同じ在り方はありません。

障がいがあっても、いつでも、どこでも、

サッカーを心から楽しめる環境を。

社会にある“障害”を超えていく

きっかけづくりも、サッカーならできる。

私たちはそう信じて、活動しています。



CONTENTS

03 会長あいさつ

TOPICS 01

04 JFAと協働し、全国9地域で 障がい者サッカー連携会議を オンラインで初開催

TOPICS 02

06 インクルーシブフットボールフェスタを オンラインで開催

TOPICS 03

07 パラフットボール財団と協力協定を締結

TOPICS 04

障がい者サッカー共同事務局を設置

08 2020年度事業報告

11 2021年度事業計画

12 JIFFパートナー制度

13 パートナー／支援団体／助成団体一覧

14 JIFF概要

15 財務報告

本連盟が設立され6年目を迎えました。新型コロナウイルスの影響によりスポーツ界および私たちを取り巻く環境は大きく変化しましたが、活動を止めず積み重ねていくことで共生社会の実現へと前進していきます。

誰もが、いつでも、どこでも、

サッカーを身近に楽しめる環境整備

設立初年度から毎年開催している「インクルーシブフットボールフェスタ」は、パートナー企業や地元企業・団体の協力を得て東京都、広島県、茨城県で開催することができ、新たにオンラインを取り入れることで障がいの有無、

地域を越え全国へと広がっています。

誰もが障がい児・者を指導できる（している）環境の実現を目指して2018度に開始した「JIFF指導者登録制度」は、着実に登録者数を伸ばし全国に障がい者サッカーの指導者が増えています。

また、2019年度から開始した「9地域障がい者サッカー連携会議」の継続により、7つの障がい者サッカー競技団体、地元の障がい者サッカーチーム、都道府県サッカー協会、Jリーグクラブ、Jリーグ百年構想クラブ等の関係者による障がい者サッカーネットワークの構築や組織化が進み、活動の連携を加速させています。

サッカーから 共生社会の実現を

一般社団法人

日本障がい者サッカー連盟 会長
北澤豪

国際的な障がい者サッカーの普及・発展への貢献

2020年3月に障がい者サッカーの国際的な連携と普及・発展に取り組むパラフットボール財団と協力協定を締結しました。これまでJFAや7つの障がい者サッカー競技団体等と協力し取り組んできたことを日本国内にとどめず、今後は国際的な障がい者サッカーの普及・発展にも貢献していきます。

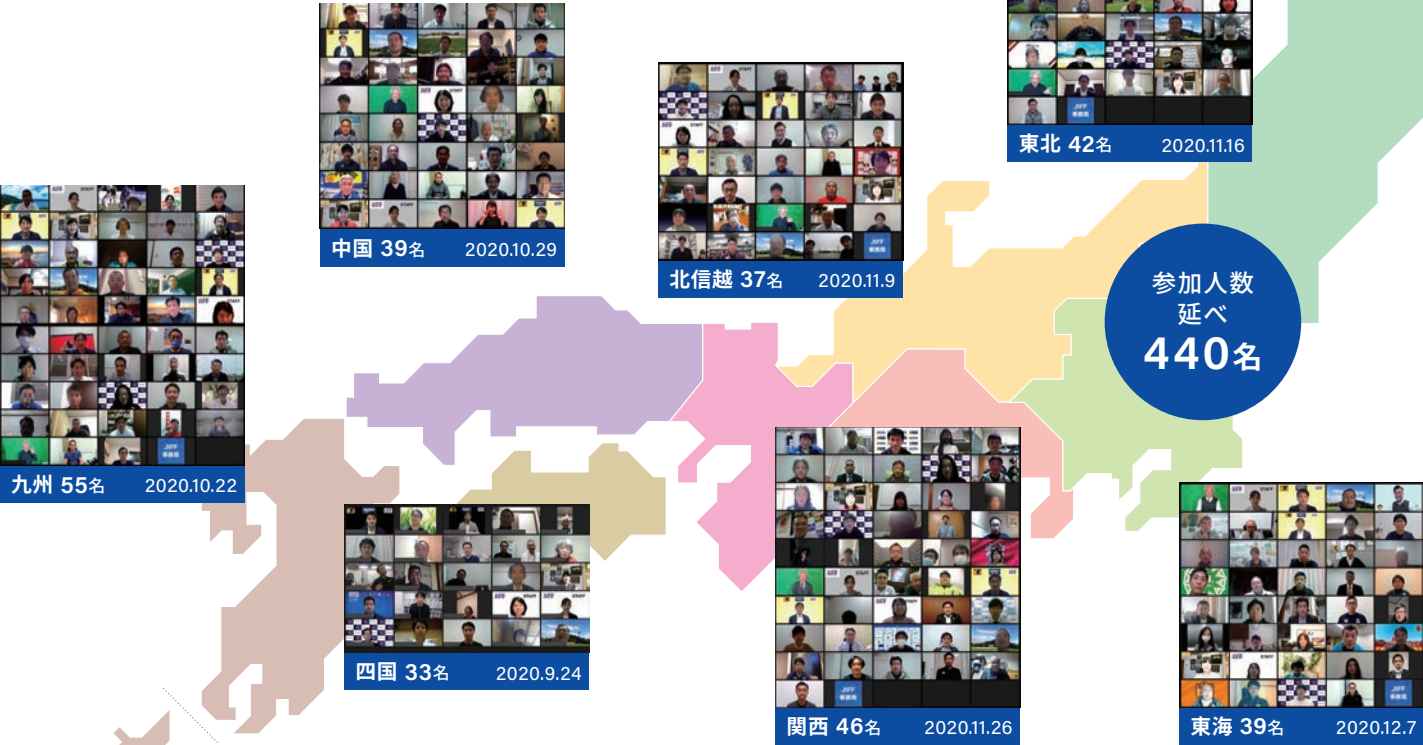
障がい者サッカー日本代表ユニフォームの統一

2017年度に団体ごとに異なる日本代表チームのユニフォームを統一しました。2020年度はコロナ禍で各障が

い者サッカー日本代表活動の中止・延期が相次ぎましたが、2021年度は東京パラリンピックに出場するブラインドサッカー男子日本代表をはじめ、強化を再開しています。

2020年3月には、7つの障がい者サッカーの新たな支援として本連盟事務局内（JFAハウス内）に「障がい者サッカー共同事務局」を開設し、オフィス提供と人的支援を開始しました。共生社会の実現に向けさらに7つの障がい者サッカーの発展、JFA・関連団体との連携、スポーツ界での連携を進めてまいります。今後とも、益々のご理解とご支援をよろしくお願いいたします。

JFAと協働し、 9地域障がい者サッカー連携会議を オンラインで開催



2020年度スポーツ庁委託事業 「障害者スポーツ推進プロジェクト」を受託

日本障がい者サッカー連盟（JIFF）は、日本サッカー協会（JFA）と協働し、2020年9月から2021年1月にかけて地域におけるネットワーク構築と障がい者サッカーの活動の推進を目的とした「9地域障がい者サッカー連携会議（地域連携会議）」をスポーツ庁委託事業として開催しました。地域連携会議は2019年度に続く2回目で、今年度はコロナ禍のためオンラインでの開催となりました。同会議は全国を9地域（北海道、東北、関東、北信越、東海、関西、中国、四国、九州）に分け、障がい者サッカー7競技団体の地域担当者、7競技団体に登録する地元の障がい者サッカーチーム代表者、都道府県サッカー協会の障がい者サッカー担当者、Jリーグクラブ、Jリーグ百年構想クラブの関係者等が参加するもので、

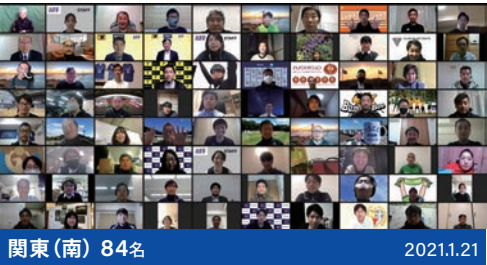
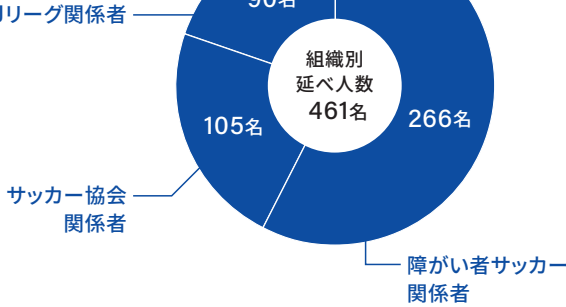
2020年度は延べ440名（昨年度より100名増）の方々に参加いただきました。特にJリーグクラブからの積極的な参加があったこと、2019年度は実際に集まっていた会議で障がい者サッカーチームの出席が開催地に所在するチームのみだったのに対し、2020年度はオンライン開催により他県からの出席も可能としたため障がい者サッカーチームの出席を増やせたことから、各組織の窓口となる担当者同士の関係構築を促すことができました。

地域連携会議では、地域全体での現状および好事例・先進事例の情報共有、都道府県単位等に細分化したグループでディスカッションを実施しました。過去2年間の地域連携会議を通じて、地域ごとの障がい者サッカー活動および関係団体同士の連携状

9地域障がい者サッカー連携会議

[実施期間] 2020年9月24日～2021年1月21日
[実施方法] オンライン（zoomを利用）
[実施単位] 全国9地域
（北海道、東北、関東、北信越、東海、関西、中国、四国、九州）
[実施回数] 合計10回
（関東のみ、北関東と南関東に分かれて実施）

組織別人数 （延べ、重複あり）



況の把握（右表を参照）、地域特性と課題の類型化をすることができました。また、課題解決の方向性として、キーマン・発掘やリーダー育成等の「人材の育成」による解決と、地域内または組織同士でリソースを提供し合える関係性を構築する「組織の確立・充実」による解決の2つがみえてきました。

2021年度は、類型化した課題を解決するため「9地域障がい者サッカー連携会議」の継続開催と、好事例の地域の担当者、課題に応じ専門的な指導者を障がい者サッカーチームに派遣している組織やインクルーシブな場づくりを実現している地域等の担当者をパネリストに招き「課題別ワークショップ」を新たに開催する予定です。

地域連携を推進する組織または会議体の増加

JFAと連携し、都道府県サッカー協会内への障がい者サッカーを推進する委員会等の設置、地域内の障がい種別を超えた障がい者サッカーの横断的な組織または会議体創設、障がい者サッカーの活動をする組織間でスムーズな連携を促す中、10都県で新しい動きがうまれました。

地域	9地域または都道府県	都道府県サッカー協会内の障がい者サッカーを扱う組織	地域内の障がい者サッカー統括組織または障がい者サッカーチームを含む会議体
北海道	北海道	北海道サッカー協会 チャレンジド委員会	北海道サッカー協会主導で障がい者サッカーチームを集めた会議、イベントを実施
東北	宮城県	宮城県サッカー協会 グラスルーツ委員会	
関東	東京都		日本障がい者サッカー連盟とJリーグクラブ等が連携し会議、イベントを実施 NEW 障がい者サッカーチームを含めた会議体発足の動き
	神奈川県		神奈川県サッカー協会主導で障がい者サッカーチームを集めた会議、イベントを実施
	千葉県		障がい者サッカーチームを集めた会議体発足の動き
	埼玉県		NEW 埼玉県サッカー協会主導で障がい者サッカーチームを集めた会議体「埼玉県障がい者サッカーネットワーク」が発足
	茨城県	茨城県サッカー協会 インクルーシブ委員会	NEW 茨城県サッカー協会主導で障がい者サッカーチームを集めたイベントを実施
北信越	群馬県	群馬県サッカー協会 障がい者サッカー担当理事	
	長野県	長野県サッカー協会 グラスルーツ委員会	長野県サッカー協会主導で障がい者サッカーチームを集めたイベントを実施
	石川県	石川県サッカー協会 グラスルーツ委員会	NEW 石川県サッカー協会主導で障がい者サッカーおよびJリーグクラブを集めた会議を実施
	福井県	福井県サッカー協会 グラスルーツ委員会	
東海	静岡県	静岡県サッカー協会 チャレンジド委員会	静岡県サッカー協会主導で障がい者サッカーチームを集めた会議、イベントを実施
	愛知県		愛知県サッカー協会主導で障がい者サッカーチームを集めた会議、イベントを実施
関西	兵庫県	兵庫県サッカー協会 障がい者サッカープロジェクト	兵庫県サッカー協会主導で障がい者サッカーチームを集めた会議、イベントを実施
	奈良県		NEW 奈良クラブ主導で障がい種別を横断したサッカーイベント実施の動き
中国	広島県		広島県インクルーシブフットボール連盟
	鳥取県	NEW 鳥取県サッカー協会 技術委員会 普及部会内 障がい者サッカー推進ミーティング	
	山口県	NEW 山口県サッカー協会 インクルーシブ委員会	NEW 山口県内で障がい者サッカーを統括する連盟設立の動き
	島根県	NEW 島根県サッカー協会 インクルーシブ委員会	
四国	四国	四国サッカー協会 インクルーシブ委員会	
九州	愛媛県	愛媛県サッカー協会 インクルーシブ委員会	
	徳島県	徳島県サッカー協会 インクルーシブ委員会	
	佐賀県	佐賀県サッカー協会 障がい者サッカー委員会	
	長崎県	NEW 長崎県サッカー協会 第1種委員会内障がい者部会	
	熊本県	熊本県サッカー協会 チャレンジド委員会	
	大分県	大分県サッカー協会 パラ委員会	
九州	宮崎県	宮崎県サッカー協会 障がい者サッカー担当理事	
	沖縄県	沖縄県サッカー協会 障がい者サッカー特別委員会	NEW 沖縄県内で障がい者サッカーを統括する連盟設立の動き

TOPICS

インクルーシブフットボールフェスタを
オンラインで初開催
東京、広島、茨城の3地域で実現

02

JIFFは、設立した2016年から毎年、障がいの有無や種別にかかわらず一緒にサッカーを楽しむことで心のバリアを取り除くことを目的に「インクルーシブフットボールフェスタ」を開催しています。2020年度は初めてオンラインで開催し、東京、広島、茨城の3地域で実施しました。茨城県内での同イベントの開催は、初めてです。

スポーツ活動を止めず、
繋がる機会を

コロナ禍ではスポーツを取り巻く環境にも大きな変化がありました。しかしここで活動を止めるのではなく、安全を確保しながらも、スポーツを通じて繋がりをもち楽しむ機会をつくるため、チャレンジしました。東京では当初来場とオンラインの併催を模索し準備を進めてきましたが、開催間近に再度感染が拡大し医療機関がひっ迫している状況を鑑み、オンラインのみでの開催に舵を切りました。リモートで

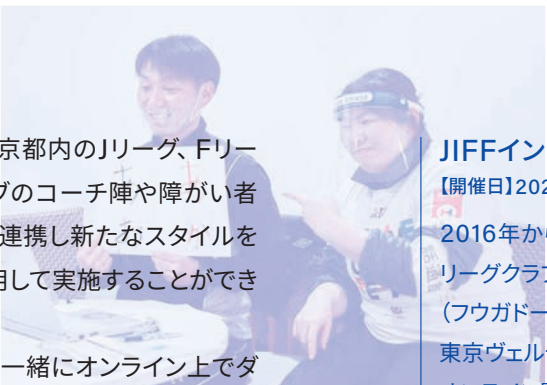


も誰もが楽しめるよう、東京都内のJリーグ、Fリーグ、なでしこリーグ各クラブのコーチ陣や障がい者サッカー選手、関係各所と連携し新たなスタイルをつくり、広島と茨城でも応用して実施することができました。

当日はゲストやコーチと一緒にオンライン上でダンスやボールタッチなど身体を動かすアクティビティ、障がい者サッカーの解説や試合応援を交えたまぜこぜサッカー等、開催地ごとに特徴ある様々なコンテンツを届け、参加者はそれぞれの場所から一緒に楽しみました。障がいの種別により難しい動きがある場合は他の方法を提示し、参加者同士が交流を感じられるよう声かけをするなど、多様なサポートをするオンラインサポートコーチも設置しました。

オンラインだからこそ広がった
参加の機会

開催の方法は例年と異なりましたが、オンラインでも一緒にスポーツを楽しめる場をつくることで、これまで障がいの度合いや居住地などの影響で来場できなかった方々にも参加の機会を広げていくことができました。離れていてもたくさんの方の笑顔に出会うことができたことは、大きな収穫となりました。



JIFFインクルーシブフットボールフェスタ2020（東京）

【開催日】2020年12月20日（日）【参加者・見学者】75名

2016年から毎年12月に、障がい者サッカー7競技団体と、東京都内のJリーグクラブ（FC東京、FC町田ゼルビア、東京ヴェルディ）、Fリーグクラブ（フウガドールすみだ、ベスカドーラ町田）、なでしこリーグクラブ（日テレ・東京ヴェルディベレーザ、スフィーダ世田谷FC）の協力を得て実施。初のオンライン開催にともにチャレンジしていただき、プログラムを構築。

インクルーシブフットボールフェスタ広島2020

【開催日】2021年1月16日（土）【参加者・見学者】79名

2019年に続く2回目。一般社団法人広島県インクルーシブフットボール連盟（HIFF）に主管委託し、地元企業28社の協賛やサンフレッチェ広島、広島エフ・ドウ（Fリーグ）、アンジュヴィオレ広島（チャレンジリーグ）、障がい者サッカーチーム・A-pfeile広島等の協力で、前回以上に地元主体での開催に。オンラインでも、地域性を生かした内容にアレンジして実施。

インクルーシブフットボールフェスタ茨城2020

【開催日】2021年3月6日（土）【参加者・見学者】115名

公益財団法人茨城県サッカー協会インクルーシブ委員会に主管委託し地元企業18社の協賛や、鹿島アントラーズ、水戸ホーリーホック、つくばFC、地元の障がい者サッカーチームおよび選手等の協力を得て、茨城県では初開催。オンライン開催でしたが、鹿島アントラーズ、水戸ホーリーホックのコーチ陣を中心にオリジナルのアクティビティを考案して実施。

TOPICS

国際組織パラフットボール財団との
協力協定を締結

JIFFは、障がい者サッカーの国際的な連携と普及・発展に取り組むパラフットボール財団（オランダ）と2021年3月1日付で協力協定を締結しました。同組織は「Football for all persons with disabilities」を理念に掲げ、様々な種別の障がい者サッカーを統括する国際連盟、各国のサッカー協会および大陸競技連盟、障がい者スポーツ統括団体と連携し障がい者サッカーの国際的な普及・発展に取り組む組織で、2020年12月3日に設立されました。

2021年3月25日にパラフットボール財団が西アジアサッカー連盟向けに実施したワークショップでは、JIFFによる取り組みの紹介も行われました。今後も優れた事例やノウハウを共有し継続的に双方の活動を支援することで、それぞれの理念の実現と障がい者サッカーの国際的な連携と普及・発展に努めて参ります。



03

TOPICS

7つの障がい者サッカー支援のための
障がい者サッカー共同事務局を設置

JIFFは、2021年3月より障がい者サッカー7競技団体の組織基盤の強化および活動のサポートを目的とした「障がい者サッカー共同事務局」をJIFF事務局内に設置しました。オフィス提供を開始するほか、各競技団体が共通して必要とする問い合わせ一次対応、郵便物対応、情報整理・発信に関する業務等の請け負いが可能な体制を共同事務局として構築し、7つの障がい者サッカーの支援を拡大しました。



04

2020年度は新型コロナウイルスの感染拡大の影響により、障がい者サッカー7競技団体が主催する多くの大会が中止となり、各カテゴリーの日本代表が出場する国際大会も中止となりました。本連盟主催事業も影響を受けましたが、「9地域障がい者サッカー連携会議」「インクルーシブフットボールフェスタ」等オンライン化することで事業を進めることができました。

新たな取り組みとしては、「障がい者サッカー共同事務局」をJIFF事務局内に設置し7つの障がい者サッカーの組織基盤の強化および活動のサポートを充実させたほか、障がい者サッカー年鑑を制作し障がい者サッカー情報の発信力を強化しました。また、障がい者サッカーの国際的な連携と普及・発展に取り組むパラフットボール財団と協力協定を締結し、国際的な障がい者サッカー活動への貢献も開始しました。

組織基盤強化事業

JIFFパートナー制度

JIFFの理念・活動に共感いただいた企業と共に、広くサッカーを通じて、障がい者と健常者が混ざり合う共生社会を築いていくためのパートナー制度を運用しました。2020年度よりJIFFパートナーのほか、新たに賛同パートナーを設け、パートナーシップ契約を更新または新規に締結しました。

※詳細は本紙12～13頁参照

チーム・選手登録制度の整備 NEW

JFAのサッカー・フットサルと障がい者サッカーが同じサッカーファミリーとして互に関わる機会を増やし、障がいの有無に関わらず共に活動できる環境をつくることを目的とし、障がい者サッカー登録制度ワーキンググループを設置しました。7競技団体内で運用するチーム・選手登録制度の現状および課題の共有と協議を行い、制度整備の方針と地域連携を推進するための情報連携方法の決定がされました。

障がい者サッカー共同事務局の設置 NEW

障がい者サッカー7競技団体の組織基盤の強化および活動のサポートのため、2021年3月よりJIFF事務局内に「障がい者サッカー共同事務局」を設置し、オフィス提供のほか、問い合わせ一次対応、郵便物対応、情報整理・発信等に関する業務、JFAハウス利用に関する業務の対応が可能な体制を構築しました。

コミュニケーション推進事業

障がい者サッカーに関する相談窓口の設置・運営

障がい者サッカーに関するさまざまな相談や問い合わせを受け付け、必要に応じて関係する競技団体と情報共有しながら対応。主に競技参加や「JIFF指導者登録制度」についての問い合わせなどがありました。

【業務時間】平日 10:00～17:00

個人向け資金調達の充実

キフティング(寄付×リフティング)をオンラインで実施できるよう公式サイトの整備を行いました。また、ポイントや古本を通じた寄付等支援の仕組みを運用しました。

障がい者サッカーの情報収集および発信

障がい者サッカーの認知度向上のために次のことを実施しました。

- ① 障がい者サッカーに関する情報収集
- ② 本連盟のウェブサイト拡充およびSNSの活用による情報発信の強化
- ③ JFAの広報ツール(公式サイト、JFAnews等)を通じた情報発信
- ④ デジタルサッカーメディア「ゲキサカ」を通じた広報およびマーケティング支援
- ⑤ 「JIFF障がい者サッカー年鑑2020」の制作(スポーツ振興くじ助成事業) NEW

スポーツ振興くじ助成金を受け、障がい者サッカー全体では初となる広報誌を制作。7つの障がい者サッカーの魅力を伝える記事と各競技の日本代表活動および全国大会の記録集の2つの要素で構成し制作しています。巻頭には、公益財団法人日本サッカー協会(JFA) 田嶋幸三会長とJIFF北澤豪会長の対談記事も掲載。



フットボール連携事業

JFA公認指導者の障がい者サッカー活動への参加促進

JFAまたは都道府県サッカー協会が開催するリフレッシュ研修会(障がい者サッカー指導コース)の修了者に本連盟から「インクルーシブフットボールコーチ」「JIFF普及リーダー」の登録証を発行し、JIFFから障がい者サッカーの情報を伝えることで、障がい者サッカー活動への参加を促進。2020年度は静岡県、千葉県、広島県の3地域・計3回開催されたほか、新たにJFAによるeラーニング(オンライン受講)が開始され、新規登録が55名、累計165名(延べ人数)となりました。

手話通訳費用補助制度の運用

JFAまたは都道府県サッカー協会あるいはそれらの傘下にある協会/連盟等が主催する指導者養成講習会および審判員養成講習会等に聴覚障がい者が不便なく受講できるようにするため、主催者等に対し手話通訳費用を補助する制度を継続して運用しました。2020年度はコロナ禍の影響もあり制度の活用はありませんでした。

「JIFFインクルーシブフットボールフェスタ2020」のオンライン開催

【開催日】2020年12月20日(日)

【開催方法】オンライン

【会場】フットサルステージ(東京都多摩市)

【内容】①ゲストやコーチと一緒にオンライン上でダンスやボールタッチなど身体を動かすアクティビティ ②まぜこぜサッカーを用いた障がい者サッカーの解説および試合応援 【参加人数】75名



「インクルーシブフットボールフェスタ 広島2020」のオンライン開催

【開催日】2021年1月16日(土) 【主催】JIFF

【主管】一般社団法人広島県インクルーシブフットボール連盟

【開催方法】オンライン 【配信会場】佐伯区スポーツセンター(広島県広島市)

【内容】①ゲストやコーチと一緒にオンライン上でダンスやボールタッチなど身体を動かすアクティビティ ②まぜこぜスマイルウォーキングサッカーを用いた障がい者サッカーの解説および試合応援

【参加人数】79名



「インクルーシブフットボールフェスタ 茨城2020」のオンライン開催(初開催) NEW

【開催日】2021年3月6日(土) 【主催】JIFF

【主管】公益財団法人茨城県サッカー協会、同インクルーシブ委員会

【開催方法】オンライン 【配信会場】かみす防災アリーナ(茨城県神栖市)

【内容】①ゲストやコーチと一緒にオンライン上でダンスやタオル・風船等を使った身体を動かすアクティビティ ②まぜこぜスマイルウォーキングサッカーを用いた障がい者サッカーの解説および試合応援

【参加人数】115名



2020年度 事業報告

2020年4月1日～2021年3月31日

前ページの続き

フットボール連携事業

9地域障がい者サッカー 連携会議のオンライン開催 【スポーツ庁委託事業】

2020年度スポーツ庁委託事業「障害者スポーツ推進プロジェクト（障害者スポーツ団体の連携及び体制整備への支援事業）」として実施しました。

※詳細は本誌4～5頁を参照

【事業名】9地域障がい者サッカー連携会議
【実施期間】2020年9月24日～2021年1月21日
【実施方法】オンライン（zoomを利用）
【実施単位・回数】全国9地域（北海道、東北、関東、北信越、東海、関西、中国、四国、九州）
合計10回（関東のみ、北関東と南関東に分かれて実施）
【参加人数】延べ440名

バルサ財団 「FutbolNetメソッド」による 障がい者サッカー指導者 講習会のオンライン開催

スポーツを通して多様な価値観を学び社会に
適応できる人材を増やしていくこと、指導者の
指導力向上を行うことで障がい児・者のサッ
カーのプレー環境整備をしていくことを目的
に、バルサ財団によるオンライン指導者講習に
協力しました。

【事業名】バルサ財団「FutbolNet メソッド」による指導者
講習会オンラインプログラム
【開催期間】①2019年度修了者向け 2020年10月5日（月）～
10月25日（日） ②新規受講者向け 2020年11月2日（月）～
11月22日（日）、2020年11月30日（月）～12月20日（日）



JFAの新たな ハンドブック作成協力

JFAが「Football for All」
JFAグラスルーツ宣言の実現、
SDGsの取り組みの一環として
制作した障がい者についての新
しいハンドブック「ひろげよう！
サッカーファミリー 次の100年
へ 誰一人取り残さない世界を
障がいのある仲間とともに」へ、
作成協力を行いました。

コンテンツ開発事業

小中学校向けオンライン教育 プログラムの開発および実施

障がい者サッカー選手との「対話」と「体験」を通じ
て思いやりを学び、工夫を実践しながらスポーツを
楽しむ小・中学生を対象としたインクルーシブ教育
プログラムを2019年度より実施。2020年度は新
型コロナウイルス感染症対策のため、オンラインプ
ログラム（45分）を新たに開発し、実施しました。

【実施形態】オンラインでの実施
【実施回数】7回（45分授業）
【日程・会場】9月14日（月）ロービジョンプログ
ラム3回（世田谷区立二子玉川小学校）、12月11
日（金）ロービジョンプログラム2回（港区立南
山小学校）、3月16日（火）ロービジョンプログ
ラム2回（渋谷区立富谷小学校）



パートナー向け オンライン企業研修 プログラムの開発

公益財団法人ケアフィット共育機
構と連携し、パートナー企業向け
のオンライン企業研修プログラム
「障がい者スポーツから組織の本
質を見直す～マインドセットチェ
ンジとインクルーシブアクション
～」を開発しました（2021年4月
から提供開始）。

その他

パラフットボール財団との 国際連携 NEW

2021年3月に障がい者サッカーの国際的な連携と普及・発展に取り組む
パラフットボール財団（オランダ）と協力協定を締結し、国際的な障がい者
サッカーへの貢献を開始しました。詳細は本紙7頁を参照。

2021年度 事業計画

2021年4月1日～2022年3月31日

組織基盤強化事業

7競技団体の組織基盤を強化し、活動をサポートする施策の実施

1 障がい者サッカーに関する相談窓口

障がい者サッカーに関する様々な相談や問合せを受け付け、必要に応じて
関係する団体と情報共有しながら、解決に導くように対応します。新型コ
ロナウイルス感染拡大状況に応じて、問い合わせ受付時間を決定します。

2 障がい者サッカー共同事務局の充実

社員の組織基盤の強化および活動のサポートのため運用を開始した障が
い者サッカー共同事務局をより活用しやすいよう充実させます。

3 JIFFパートナー制度の充実

JIFFパートナー制度を効果的に運用し、パートナーを拡大することで、事
務局運営基盤の強化および社員の活動サポートの原資を確保すると共
に、パートナー企業が自社のイベントや社員教育等に障がい者サッカーの
プログラムをコロナ禍でも有効活用できるようにします。

4 7競技団体の登録制度の整備

登録制度が整備されていない社員に対し整備を促しそのサポートを行いま
す。

5 各種会議の開催

社員の組織基盤強化や組織間の連携を図るための会議等を開催します。

コミュニケーション推進事業

障がい者サッカー全体の情報発信力を強化し、
ファンや支援者を増やす施策の実施

1 障がい者サッカーの情報収集および発信

障がい者サッカーの認知度向上のために次のことを実施します。

- 1 障がい者サッカーに関する情報収集
- 2 本連盟ウェブサイトの運用およびSNSの活用による情報発信の強化
- 3 JFAの広報ツール（公式サイト、JFAnews等）を通じた情報発信
- 4 デジタルサッカーメディア「ゲキサカ」を通じた広報
およびマーケティング支援
- 5 障がい者サッカー年鑑の発行
- 6 英語版ウェブサイトの構築

2 個人向け資金調達の充実

ファン獲得のために次のことを実施します。

- 1 個人の継続寄付会員制度「JIFFサポート会員」の構築と運用
- 2 キフティング（寄付×リフティング）活用の推進
- 3 ポイントや古本を通じた寄付等支援の仕組みの運用

3 Warm Blueキャンペーンの実施

4月2日自閉症啓発デーに合わせて、自閉症の方だけでなくその他の障が
いや難病のある方、LGBTの方など多様な方が混ざり合って楽しみなが
ら普及啓発を行います。

フットボール連携事業

サッカー界のリソース活用と連携施策の実施

1 JFA公認指導者に対する障がい者サッカー活動への参加促進

都道府県サッカー協会が開催するリフレッシュ研修会（障がい者サッカー
指導コース）の修了者に本連盟から「インクルーシブフットボールコーチ」
「JIFF普及リーダー」の登録証を発行し、本連盟から障がい者サッカーの
情報を伝えることで、障がい者サッカー活動への参加を促進します。

2 手話通訳費用の補助制度の運用

日本サッカー協会または都道府県サッカー協会あるいはそれらの傘下
にある協会/連盟等が主催する指導者養成講習会および審判員養成講習
会等に聴覚障がい者が不便なく受講できるようにするため、主催者等に
対し手話通訳費用を補助する制度を継続して運用します。

3 インクルーシブフットボールフェスタの開催

共生社会の実現のため、障がい者も健常者も混ざり合ってサッカーを楽
しむインクルーシブフットボールフェスタを開催します。開催地は東京、広
島、茨城において継続し、新規での開催にも努めます。コロナ禍の状況が
続くことを考慮し、オンラインプログラムの準備も並行して進めます。

4 9地域障がい者サッカー連携会議の開催

各地域において障がい者サッカーの連携を図るため、JFAとともに、全国
を9地域（北海道、東北、関東、北信越、東海、関西、中国、四国、九州）に分
け、9地域障がい者サッカー連携会議をオンライン開催します。

5 地域連携ワークショップの開催

9地域障がい者サッカー連携会議で類型化した課題の解決を図るため、
課題別に好事例のある担当者をパネリストに招き、ワークショップを実施
します。

6 バルサ財団「FutbolNetメソッド」による 障がい者サッカー指導者講習会の開催

スポーツを通して多様な価値観を学び社会に適応できる人材を増やして
いくこと、指導者の指導力向上を行うことで障がい児・者のサッカーのプ
レー環境整備をしていくことを目的に、バルサ財団と協力し障がい者サッ
カー指導者講習会を開催します。

コンテンツ開発事業

共生社会実現へ向けロールモデルとなる事業の開発の実施

1 研修プログラムの開発・販売

企業向けのオンラインでの研修プログラムの開発および販売を行います。

2 教育プログラムの事業化

小・中学校向けにオンラインでのインクルーシブ教育プログラムを行いま
す。

その他の事業

1 国際連携の取り組み

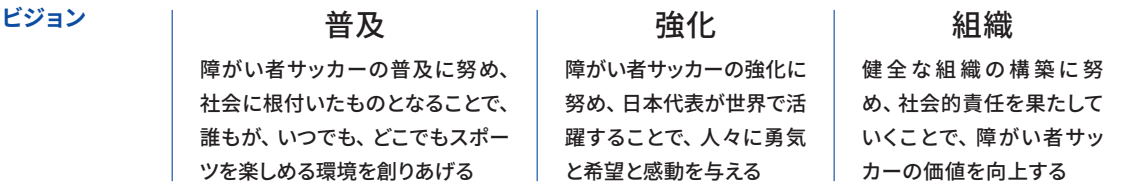
パラフットボール財団と協力し障がい者サッカーの国際的な連携と普及・
発展に取り組めます。

JIFF概要

JIFFはJFAの関連団体で、JFAと協働し、7つの障がい者サッカー競技団体の活動をサポートする中間支援組織です。

理念

広くサッカーを通じて、障がいの有無に関わらず、誰もがスポーツの価値を享受し、一人ひとりの個性が尊重される活力ある共生社会の創造に貢献する



名称

一般社団法人 日本障がい者サッカー連盟
Japan Inclusive Football Federation

設立

2016年4月1日

役員

※2021年7月時点

役職	氏名
会長	北澤 豪
副会長	井口 健司 (特定非営利活動法人 日本ブラインドサッカー協会) 山木 譲 (一般社団法人 日本電動車椅子サッカー協会)
専務理事	松田 薫二 (公益財団法人 日本サッカー協会)
理事	佐々 毅 (特定非営利活動法人 日本ソーシャルフットボール協会) 神 一世子 (一般社団法人 日本CP サッカー協会) 田中 賢二 (一般社団法人 日本ろう者サッカー協会) 津島 直樹 (特定非営利活動法人 日本知的障がい者サッカー連盟) 日比野 (田中) 暢子 (桐蔭横浜大学) 前鼻 啓史 (特定非営利活動法人 日本アンプティサッカー協会)
監事	樽本 哲 (弁護士) 奥村 武博 (公認会計士)

社員構成

特定非営利活動法人 日本アンプティサッカー協会
一般社団法人 日本CP サッカー協会
特定非営利活動法人 日本ソーシャルフットボール協会
特定非営利活動法人 日本知的障がい者サッカー連盟
一般社団法人 日本電動車椅子サッカー協会
特定非営利活動法人 日本ブラインドサッカー協会
一般社団法人 日本ろう者サッカー協会

所在地

〒113-8311 東京都文京区サッカー通り(本郷3-10-15) JFA ハウス内

公式サイト

<https://www.jiff.football>

公式SNS

プラットフォーム	URL
Facebook	https://www.facebook.com/jiff.football/
Twitter	https://twitter.com/JIFF_Football
Instagram	https://www.instagram.com/jiff_football/

障がい者サッカーに関する相談窓口 **03-3818-2031**(平日10:00~17:00)

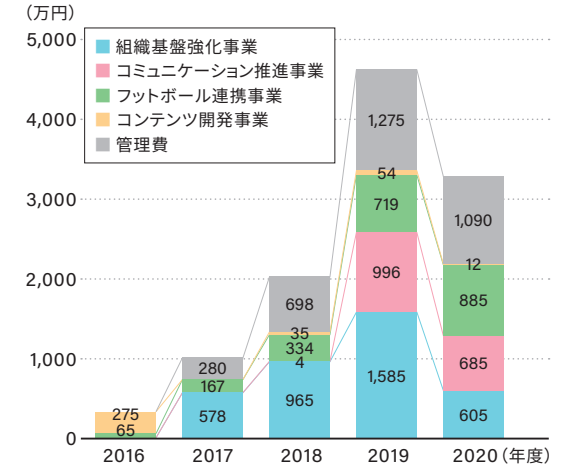
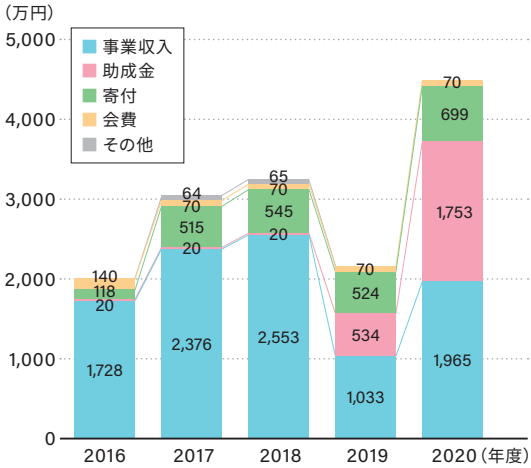
財務報告

2020年度は、新型コロナウイルスの感染拡大の影響により本連盟の社員である障がい者サッカー7競技団体が主催する多くの大会が延期・中止となり、各カテゴリーの日本代表が出場する国際大会も延期・中止となりました。本連盟主催事業も影響を受けましたが、オンライン化することで事業を進めることができました。

収支については、中長期的に収益源の分散を図るため、2019年度から助成金による資金調達を戦略的に強化してきました。2020年度はスポーツ庁による継続事業委託のほか、新規で日本振興スポーツ

事業別支出推移

収入推移



活動計算書

2020年4月1日～2021年3月31日

科目			金額
経常収益	受取会費	正会員受取会費	700,000
	受取寄附金	受取寄附金	6,989,288
	受取助成金等	受取国庫助成金・受取民間助成金	17,527,220
	事業収益	フットボール連携事業収益	2,384,091
		コンテンツ開発事業収益	150,000
		ファンレイジング等収益	17,115,154
	その他の収益		497
経常収益 計			44,866,250
経常費用	事業費	人件費	4,804,606
		その他経費	17,069,292
	管理費	人件費	6,165,027
		その他経費	4,739,392
経常費用 計			32,778,317
当期経常増減額			12,087,933
税引前当期正味財産増減額			12,087,933
法人税、住民税及び事業税			70,000
前期繰越正味財産額			24,082,167
次期繰越正味財産額			36,100,100

貸借対照表

2021年3月31日現在

科目			金額	科目			金額
資産の部	流動資産	現金預金	46,620,241	負債の部	流動負債	未払金	4,659,160
		棚卸資産	1,872,000			未払法人税等	70,000
		立替金	178,200			未払消費税等	859,300
		未収入金	5,334,852			預り金	109,746
		前払費用	1,527,213			前受収益	13,941,667
	流動資産	計	55,532,506				
	固定資産	一括償却資産	207,467				
	固定資産	計	207,467			流動負債	計
資産の部 合計			55,739,973	負債の部 合計			19,639,873
			正味財産の部		前期繰越正味財産額	24,082,167	
					当期正味財産増減額	12,017,933	
			正味財産の部 合計			36,100,100	
			負債及び正味財産 合計			55,739,973	

個人のご寄付について



サッカーを通じた共生社会の実現に向け、 活動のサポーターとなる個人の継続寄付会員 「JIFFサポート会員」を募集中

日本障がい者サッカー連盟（JIFF）は、個人の継続寄付会員制度として「JIFFサポート会員」を募集しています。月1,000円からの入会が可能であり、いただいたご寄付は、すべて7つの障がい者サッカーの普及・発展および共生社会の実現に向けた活動に充てさせていただきます。

JIFFサポート会員特典

- 前年度の障がい者サッカー年鑑（毎年4月頃に送付）
- JIFF年次報告書（毎年8月頃に送付）
- JIFF主催イベントの優先申込権 ほか



▶ 入会方法・詳細

<https://www.jiff.football/special/kifu-2021/>



Tポイントで寄付する

聴覚障がい者のスポーツ参画を応援する

聴覚障がいの場合、聞こえないまたは聞こえにくいことを除けば健常者と変わらないにも関わらず、情報保証がなされないことで指導者や審判員としてのチャレンジを断念しなければならないことが多くあります。本寄付金は、JIFFの「手話通訳費用補助制度」により、講習会や研修会の手話通訳費用に使用されます。1円からの寄付、Tポイント1ポイントからの寄付が可能です。



▶ ご寄付のご案内

<https://www.jiff.football/join/support/>



読み終えた本で寄付する

障がい者サッカー全体を支援する

不要になった古本やDVD、ゲーム、デジタル家電等を寄贈していただき、その買い取り額相当がJIFFに寄付される仕組みです。古本買取専門店「本棚お助け隊」が提供するファンドレイジング支援プログラムであり、回収用のダンボールは無料で、ゆうパックで全国無料集荷も可能です。また、郵便局やローソンから気軽に発送できます。



一般社団法人 日本障がい者サッカー連盟
年次報告書2020／2021年7月発行

©2021 Japan Inclusive Football Federation